

要旨

地域との接点から見る障害者福祉施設の調査と設計

社会システム工学コース

1215050 天羽朝陽

障害者福祉施設では地域移行が進められる中、現在でもなお施設コンフリクトなどの問題を抱え、その多くは地域の中で孤立してしまう。地域社会から隔絶されることなく、シームレスな接続性を確保するには建築的観点においてその接点にはどのような様態を持つのだろうか。本稿では障害者福祉施設の基本設計を行い、事例調査の中で位置付けることで、地域と施設間における接点の様態について考察する。

■基本計画、基本設計

基本計画では障害者就労継続支援B型事業所こじゃんとはたら来家さかわを対象として、3回のワークショップと与条件から計画の方針を導いた。基本設計では地域との接点に影響を及ぼすと考えられるアプローチ近傍の空間を着眼点として計画の方針から設計の方針を導き、設計提案を行った。

■事例調査

事例調査ではアプローチ近傍を構成する要素の連関と接道条件の観点から多焦点拡散型と多接点収束型の2つの類型を導き、それぞれ異なるアクティビティの方向性を生むことがわかった。

■位置づけ

事例調査によって導いた類型に、基本設計を照らし合わせ、その位置付けと考察を行い、地域と施設の接点の様態を明らかにした。

以上の3つの過程により、障害者福祉施設における地域と施設の接点の様態について調査を行った。